

令和7年度学校評価 重点目標と評価結果について

本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・いのちを尊び、こころやからだを鍛え、たくましく生きぬく力を養う。 ・自ら学び、深く考え、広い視野をもって主体的に行動する力を養う。 ・礼節を重んじ、自らを律し、他とともにこころ豊かな生活を築く態度を養う。 		
項目	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
学習指導	① 学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習習慣の確立 ・授業内容の工夫と授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から定期考査の赤点該当者に学習評価シートを用いて、自己の学習についての振り返りを実施した。家庭学習の時間だけでなく、授業への取り組み、学習方法、定期考査への取り組み等のさまざまな観点から自己の学習を振り返ることができたが、赤点該当者の減少につなげるところまではできず、今後も改善が必要である。 ・定期考査の赤点該当者の基準を30点と変更したことで、今までの授業や課題、定期考査の内容について、教科ごとに大きく見直す機会をもつことができた。また、朝テストや補習についても学校全体での見直しを進めており、生徒・教員双方にとってよりよい形を模索しているのが現状である。
	② 新学習指導要領の円滑な実施	・新学習指導要領実施上の課題への対応	赤点該当者の基準変更に伴い、教科の垣根を越えて、学校全体で観点3の評価方法を共有、検討する機会をもつことができた。マネジメントシートの活用がまだ十分ではないところもあり、次期学習指導要領に向けて、教育課程の見直しなど、カリキュラムマネジメントを学校全体で取り組んでいく必要がある。
進路指導	① 進路指導の充実	・キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師や卒業生を活用して、1年生では「社会人を囲んで」、2・3年生では「卒業生を囲んで」「大学説明会」など各学年に応じたキャリア形成を促す取り組みができ、生徒の満足度の高い企画となっている。 ・インターンシップは、生徒の安全や健康面に配慮しながら1・2年生の希望者を対象に実施できた。参加人数は少ないが、事前指導、事後指導を含め充実した取組となっている。3年生は、一日看護体験に参加した。 ・3年生は、外部の講師を招き、キャリア教育講演会を2回実施し、大学進学後のキャリア形成に活用できるような講演をしていただいた。 ・2年生においては、一年間を通じて探究活動を通して進路研究を行い、保護者会において、担任・保護者の前で今後の進路展望について話をする機会を設けた。 ・今後も「生徒の希望を満たす学校」となるべく、学習指導課と連携し、総合的な探究の時間やLIT、学校行事などを有機的に結び付け効果的で効率的なキャリア教育のあり方を模索、工夫していくためにも、外部の教育資源やデジタル教材の有効活用を検討したい。
		・学年に応じた進路情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒および保護者に対して、3年間を見据えて各時期に応じた内容の進路情報を発信した。年間を通して、共通テストや大学入試の変革などについて丁寧な説明と情報提供を心掛けた。生徒向けの進路説明会や保護者進路説明会（一定の高い評価をいただいている）等の進路に関する行事について、より効果が上がるよう内容を検討する。また、今後の入試改革の動向を見据え、現在の取組を見直し新しい取組を考えていく必要性を強く感じるため、その具体的な対応について検討を進めている。
生徒指導	① 基本的生活習慣の確立	・遅刻等の防止	・正門において登校指導を行い、挨拶の励行や遅刻防止に努めた。遅刻早退を可視化できるように工夫した結果、今年度は遅刻の数が2割ほど減少しそうである。来年度以降も継続したい。
		・挨拶の励行	・挨拶の重要性について、朝礼や式典の機会を利用し呼びかけた。廊下ですれ違う時にも元気に挨拶する生徒が増えてきている。今後も、教員側からの挨拶を意識していきたい。
		・身だしなみ指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・清潔感のある身だしなみを心がけるように指導をおこなった。季節が変わる時期の制服着用にやや乱れがみられたため正しい制服着用を呼びかけた。今後も呼びかけを継続する。朝礼や式典の機会を利用し身だしなみを整えることの重要性を全校生徒へ周知した。 ・6月から10月までの間、体操服登校を行った、快適であるという意見が多く寄せられたので来年度も実施を検討する。
	② 好ましい人間関係の育成	・人権啓発指導の推進	・式典時の講話や人権啓発指導などにより、全校生徒に人権を意識し、他人を思いやることの大切さを訴えた。このような継続した指導にもかかわらず、SNS等のトラブルが発生していることは残念に思う。今後も他人事と思わせない指導は必要であるため重点課題として意識していきたい。また、生活状況調査の実施方法を検討したい。
		・担任指導の充実	・担任業務の遂行には生徒との良好な人間関係が必要である。学校としての指導方針を確認しつつ、生徒の面談も充実させ、教員も生徒もお互いの成長を望む環境を今後もつくり上げていくことが必要と感じる。
		・学校行事の充実	・「五条祭」については生徒・教職員の協力を得て、無事に終えることができた。「体育祭」は愛知県体育館においてブロック制を導入したところ学年を超えたまとまりが大きい盛り上がりがあった。また運営も教員の協力もありスムーズであった。「文化祭」では全校で合唱コンクールを実施した。審査員の音楽の教員からもよく仕上がっていたと講評をいただいた。
③ 安全意識の向上	・交通安全指導の充実	・交通マナーへの指摘や不審者情報などへの対応は、クラスへのプリント配布や全校放送さらには巡回指導などで早急に周知、対応した。幸い、大きな事故などは起きなかったが、安全意識のさらなる向上及び自転車ヘルメット着用率向上が課題である。	

		・自己防衛意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSに絡んだトラブルに対しては、関係生徒が多数となることが多く生徒指導課、学年と協力して迅速に対応していくことが特に重要になってきている。今後もきめ細かい指導を継続していきたい。 ・朝礼や式典の機会を利用し、生徒自身が危機意識を持つことの重要性、安全意識の向上について周知を図った。
生徒支援	① 学習支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・課外授業の充実 ・土曜教室の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒はもちろん、保護者からも課外授業・土曜学習への期待は大きいと感じる（保護者アンケート結果による）ので、通常の授業と同様、充実したものにしていかなければならない。 ・朝補習の遅刻・土曜学習の欠席など、今年度も生徒の遅刻・欠席の多い日があった。生活リズムを整える、意識の改善を図るなどの声掛けを日頃から忘れず行っていきたい。
	② 生活支援の充実	・部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の登録を希望制にしたものの、予想を上回る生徒が登録し、多くの部活動が継続を希望する状況となった。 ・一方で、教員の時間外勤務の縮減や、土日の部活動のあり方の見直しが求められる中、部活動顧問を担当できる教員が減少している。その結果、複数の部活動で顧問を掛け持たざるを得ない教員が増え、負担が大きくなっている。 ・また、かつて9クラスあった時代から部活動の数はほとんど変わっていないが、次年度は6クラス定員となり、教員数の減少が避けられない。そのため、今後ますます部活動顧問の確保が難しくなることが予想される。 ・クラス数が減少していく中で、現在の部活動数を維持することは現実的でなく、持続可能な部活動運営の在り方を検討する必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・読書習慣の育成 ・図書委員会の活性化 ・季節ごとの読書企画 	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生図書オリエンテーションやピブリオワールドなど読書啓発活動を計画実施した。また、新刊書籍・ベストセラー本などの情報発信や図書委員の活動として読書に関する考察（書評）などの取り組みを工夫した。 ・ピブリオバトルを文化祭のイベントの一つとして実施することで、学年全体の行事として扱うことができた。 ・読書週間を設定し、期間中のイベント（図書館祭り）を通して、図書委員会の活性化や読書企画の取り掛かりとなる年度となった。 ・貸出冊数は例年通りのため、まずは生徒が図書室に「来る」ことを目的としたイベントや行事を計画していきたい。
		・教育相談（特別支援教育）の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・面談を入学前のオリエンテーションから実施して、情報を収集した。配慮が必要な生徒に関する情報を、学年相談係・養護教諭を通して教育相談委員会で共有、対応について検討した。 ・特に支援計画を要する生徒の対応については、学年所属、授業担当者にも理解を求めた。SCによるカウンセリングでは、相談状況を担任へフィードバックすることを心掛けた。 ・その他の配慮が必要な生徒に関しては、外部の相談機関や医療機関への相談を勧めるなど生徒に関する情報共有を円滑に進めた。SCへの相談件数は一定数あるものの、相談係、養護教諭とSCとの情報共有の時間を確保し、配慮が必要な生徒への早期対応や寄り添う体制づくりを心掛けている。 ・また総合教育センターより講師を派遣していただき、職員に対して研修を行った。
		・環境美化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・全員清掃、特にトイレの清掃を徹底できるように、保健部員の見回りを随時行ったり、マニュアルを整備した。生徒の清掃道具の取り扱いの意識向上、清掃道具ロッカーの点検も実施できた。 ・安全点検として、校舎内の危険箇所の把握と補修を進めていった。
その他	① 広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・HP等の有効活用 ・学校説明会（体験入学）の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度まで学校生活の欄はほとんど学校行事の報告であったが、今年度は担当者が積極的に普段の生徒たちの活動状況を紹介したことで、学校の様子について十分な情報発信ができています。 ・体験授業を希望制にし、自分が受けたい教科の授業を受けられるようにしたことで、参加した中学生の満足度は上がったと思われる。 ・PTA 役員に「五条生と話そう」という企画に参加してもらい、五条生の保護者の立場で中学生の保護者の質問に答えたり相談に乗ってもらったりした。 ・参加者の印象に残るように学校紹介等で動画などの映像を多く取り入れているが、一部アップデートが間に合わなかった。
	② PTA 活動の活性化	・生涯学習の一環としての活動	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭のPTA企画では、役員、理事の皆さんが楽しそうに取り組まれ、生徒や職員とのふれあいの場になった。 ・役員を中心に、PTA 活動や学校に対して前向きな御意見をいただき、学校運営の参考にさせていただいた。
	③ 学校安全の推進	・地震等への対応	
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導における授業改善の推進及び家庭学習の充実を図る。 ・「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの早期発見・早期対応に取り組む。 ・在校時間等の状況記録の結果を活用し、業務の適正化を図るとともに教職員の適切なメンタルヘルスの保持に努める。 	